

執 筆 要 領 (旧)

原稿は和文で横書き口語体とする。漢字の使用は、専門用語を除き、できるだけ常用漢字に限る。文章の区切りはコンマ (,) と句点 (.) にする。原稿には A4 判縦用紙を用い、ワードプロセッサなどで横書きする。原稿の上下と左には約 3 cm, 右には校閲のために 8 cm 以上の余白をとる。1 行文字数は 24 字, 1 頁行数は 28 行以下とする。

<論文原稿>

- 論文原稿の第 1 頁には、表題、著者名、所属、英文表題、英文著者名、別刷りの英文請求先、原稿の受領・登載決定日（日付は空欄）を書く。第 2 頁には和文あるいは英文の摘要を書き、本文は第 3 頁から書く。原稿には必ず頁番号を入れる。
- 摘要は簡潔にまとめ、改行はしない。
- 本文の見出し・小見出しのランクは、番号なし（材料および方法、結果など）、1. , 1) , (1) , の順とする。
- 動植物名はカタカナ、病名は常用漢字またはひらがなとし、動物・害虫名は日本応用動物昆虫学会編の農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版、病名は日本植物病理学会編の日本植物病名目録に準拠する。数字は原則として算用数字を用いる。
- 見出しはゴシック体とする。本文は、和文については明朝体、欧文については Century とする。ただし、図表中については特にフォントの指定はしない。欧文のイタリック体は実線の下線、ゴシック体は波線の下線、スモールキャピタルは二重の下線で示す。学名は本文の最初に出てきたときに書き、イタリック体とする。
- 単位の略記は次の例による。
温度 °C ; 重さ kg, g, mg, μg など ; 長さ m, cm, mm, μm , nm ; 面積 m^2 , cm^2 , a, ha, ; 容積 L, ml, μl ; 時間 ' (分) , " (秒) (文章の中では分, 秒とする) ; 濃度 M, mM, N, %, ppm, ppb ; 水素イオン濃度 pH ; 酸化還元電位 Eh, rH。
- 本文中や引用文献等の欧文人名は次のようにする。
例, Baker et al. (1975), Dyar の法則,
- 本文中で文献の引用は次のようにする。
野口 (1982a, 1982b, 1983), Tanaka and Kashio (1977), 田中・井上 (1973) , 田中ら (1974) , Baker et al. (1975), (桑原ら, 1983 ; 池田ら, 1984 ; Smitsaert et al., 1985)
- 引用文献はアルファベット順、暦年順に配列し、次のように記載する。
 - 雑誌など逐次刊行物
五味唯考・根本正康 (1984) 日植病報 50: 109-113.
Nakamura, K. and K. Kawasaki (1977) Appl. Entomol. Zool. 12: 162-177.
 - 単行本
大木 理 (2007) 植物病理学. 東京化学同人, 東京. 161pp.
Lewis, T. (1973) Thrips, Their Biology and Economic Importance. Academic Press, London. 300pp.
 - 単行本中の分担執筆論文
岡本 弘 (1962) 植物病理学実験法 (明日山秀文ら編). 日本植物防疫協会, 東京. pp. 301-334.
Sanders, C. J. (1974) Pheromones (M. C. Birch ed.). North-Holland Pub. Co., Amsterdam. pp. 435-441.
 - 雑誌および単行本で著者が 3 名以上の場合は、著者名は和文で――ら、英文では―― et al. とする。
 - 引用文献の記述は、日本語および日本語姓と名前の字間および氏名間の・の全角を除き、括弧、ページ間のハイフン、コロン、カンマ、ピリオド、英字、数字等はすべて半角とし、字間も半角とする。また、括弧の前後および半角コロン、カンマ、ピリオド等の直後には半角スペースを挿入する。
- 図はできるだけ簡略にし、必要最小限にとどめる。図は、あらかじめ 1/2 (面積で 1/4) 程度に縮小できるように描く。凡例は図内に書く。
図の表題は図の下部に書き、第○図.....のようにする。
- 表はできるだけ簡略にし、原則として縦線は使用しない。
表の表題は上部に第○表.....のようにする。表中の注釈は a), b)..... (上付) を用い、表下は以下のようにする。

a).....

b).....

12. 図表は1枚を1葉に書き、図表の挿入位置を原稿の本文右余白に明確に示す。
13. 図を手書きする場合には、あらかじめ事務局に連絡し、その指示に従って作成する。
14. 審査を経て受理された原稿は、編集委員長の指示に従い所定の様式に再編集し、e-mailに添付して編集委員長へ送付する。

<講演要旨>

表題，著者名，（所属），本文の順に，それぞれ改行を入れて全体を600字程度にまとめる。